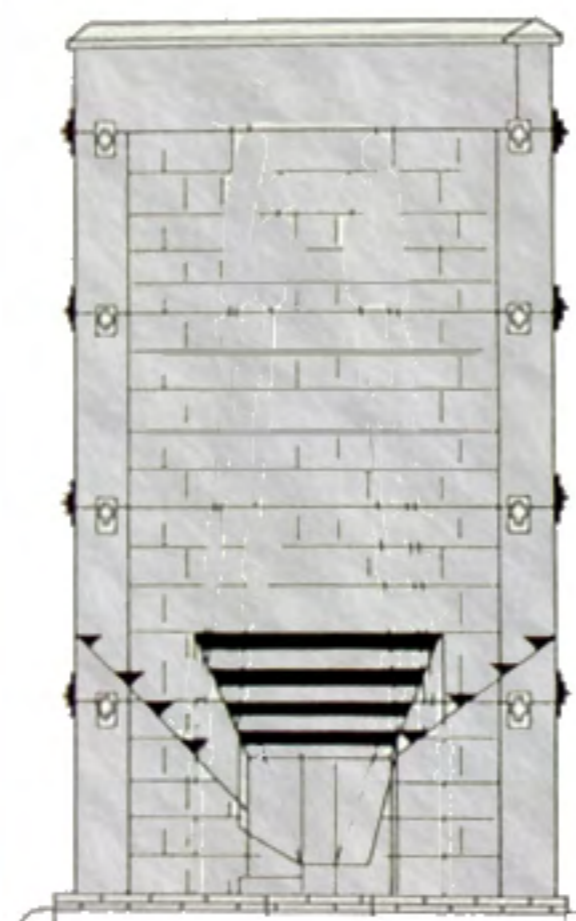


三番高炉

三番高炉は安政5年(1858)に仮高炉として建設されたものを万延元年(1860)以降に改修し、三番高炉とした。この高炉は一番・二番高炉廃棄後も稼動し橋野高炉が廃止される明治27年(1894)まで稼動した。



山神社・市ノ助の墓

この山神社は橋野高炉の安全を願って建立されたが明治27年(1895)に廃業になるとき橋野町中村の熊野神社に御神体、手洗鉢などが移設されている。

山神社から5mほど登った所にあるお墓は橋野高炉創業時から支配人を勤め文久元年(1861)に亡くなった市ノ助の墓です。



山神碑



市ノ助の墓

御日払所

御日払所とは今で言う事務所のことで、従業員の賃金の支払いや、鉄鉱石の管理、製品の管理などを行っていた。



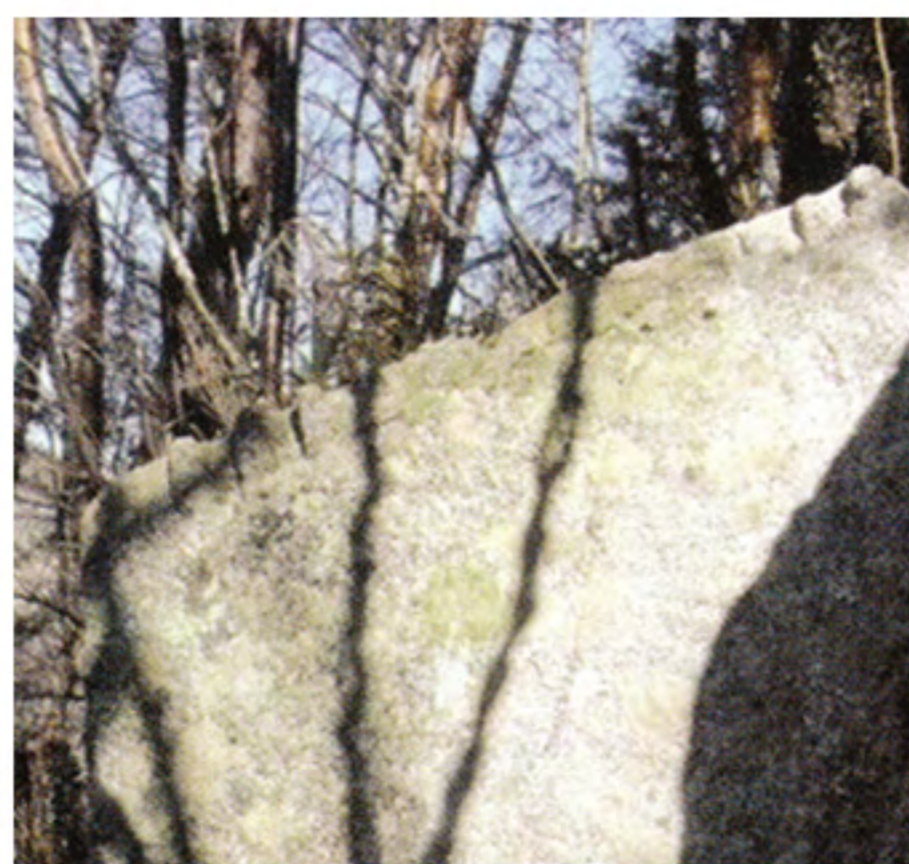
当時の暮らし

橋野高炉には最盛期約1000人の従業員がいたとされています。橋野高炉の当時の操業風景を描いた「高炉絵巻」には長屋や、大工長屋、鍛冶長屋など職人の作業場も描かれています。



高炉の石組

150年以上たった今も残されている高炉の石組みですがどこから持ってきたのでしょうか？答えは種焼場から一番高炉にかけての裏山です。種焼場周辺にはたがねの跡が今も残っている岩があります。この岩はすべて花崗岩で出来ています。



ユニホーム

橋野高炉で働く従業員は、藍染に「橋」の字とその下に「橋野橋野」という字を型染めした半纏を着用していたようです。「高炉絵巻」には色違いの半纏を着る頭領と思しき方も描かれています。



餅鉄

ここ橋野の川原では餅鉄と呼ばれる良質の鉄鉱石が採れました。村人が持ち込む餅鉄を御日払所が買い上げていたそうです。その証拠として「餅鉄通」というものが残されています。



橋野高炉跡を世界遺産へ

橋野高炉跡世界遺産登録推進期成同盟会

当会は、市民レベルで橋野高炉跡の世界遺産登録を応援するため市民有志で作りました。

橋野高炉跡案内パンフレット

編集・発行 橋野高炉跡世界遺産登録推進期成同盟会

〒026-0001

岩手県釜石市大字平田5-16-11(コンノ電器内)

TEL0193(26)5508